

## 第 43 回 役員会 議事要録

日 時：平成 25 年 4 月 26 日(金)14：00～15：00

場 所：北方キャンパス本館 E-703 会議室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、松尾理事、梶原理事、井村理事、  
中野(利)監事、中野(昌)監事、漆原副学長

### 報告

- 1 平成 25 年度の重点的な取組みについて
- 2 教員の昇任選考について
- 3 平成 25 年度入学者数について
- 4 平成 25 年度一般選抜の合否判定等について
- 5 平成 24 年度入試広報活動について
- 6 平成 24 年度卒業生の就職状況について
- 7 危機管理規定の制定及び「安全・安心ハンドブック」の作成について
- 8 創立 70 周年記念事業委員会の設立について
- 9 その他

### 報告 1 平成 25 年度の重点的な取組みについて

配布資料 1 のとおり、平成 25 年度の重点的な取組みについて説明があった。

- グローバル人材推進事業の「Global Education Program (以下 GEP)」と「Start Up Program」、  
「Global Standard Program」のそれぞれの違いを簡単に言うと何か。
- Global Education Program が 2 年生から始まるに当たり、1 年生の頃から学生の英語力やグ  
ローバルな物の見方を育てるべく Start Up Program を今年度より始めた。主な内容としては  
グローバル関連科目と指定した授業を履修することと、基礎的な英語力アップを図ることだ。  
そしてこの Start Up Program を受けた学生の中から、それぞれの到達度や関心によって 2 年  
次以降に副専攻に進むか、もしくは来年度から始まる Global Standard Program に進むか、ま  
たは Career English Program という英語中心のプログラムに進むかということになる。Global  
Standard Program に関しては副専攻よりは比較的敷居が低くなっているが、より広く視野を  
身に着けてほしいということで募集定員を 130 名として全学部から募る方向だ。
- 学生はこのパンフレットを見て選ぶのだと思うが、分かりにくいだろうか。
- 特に 1 年生に関しては、副専攻プログラムも含め大学のカリキュラム自体に不慣れだろうとい  
うことで 4 月のオリエンテーションの時期から合計 7 回の説明会を行った。結果、一通りは理  
解を頂いたようではある。後は事務局の窓口や専任のアドバイザーが対応していく予定だ。
- 今年度の北方キャンパスの入学者数は 1200 人弱だったが、そのうちの 2 人に 1 人が Start Up  
Program に登録するという、当初の予想を上回る数の学生が参加する形となった。その分クラ  
ス分けや指導をどうするかという課題も出てきたが、このプログラムのアピールがしっかりで  
きて、関心が高まったということではないかと思う。
- Global Standard Program と Career English Program は、Global Education Program とは難  
易度が違うという事だろうか。
- そうである。
- Career English Program には TOEIC の基準点などは書いていないが、そういったものはある  
のか。

- Global Education Program と Global Standard Program に関しては申請時・修了時にそれぞれ GPA と TOEIC の点数等の基準があるが、このプログラムにはそういった基準はない。
- では、Global Education Program と Global Standard Program の相互関係はどうなっているのか（資料に記載されている相互矢印を指して）。
- これらは2年次からのプログラムだが、Global Standard Program に進んだ後、規定をクリアすれば3年次に変更する事も可能だ。逆に諸々の事情で Global Education Program から Global Standard Program に下りることも可能だ。もう一つの決定的な違いは留学での単位の取得を課すか課さないさいかだ。そして Global Standard Program は主専攻と基盤科目で履修が完結するのに対して、Global Education Program はプラス $\alpha$ の履修が必要になる。
- TOEIC の点数獲得や自分の専門以外の専門科目の履修が必要になるという事か。
- そうだ。例えば外国語学部の主専攻では文化・言語の授業が中心になるが、副専攻 Global Business Course だと経営系の科目が用意されているという事だ。
- これらは全て補助事業で賄えるのか。
- 少なくとも補助金が支給されている間はそうだ。事業が終了した後は考えなければいけない所ではある。
- 落第みたいな事はあるのか。
- 修了時に規定を設けているコースに関しては、満たしていなければ修了証はもらえない。ただ、卒業ができないという事ではない。
- なるべくそういった学生を出さないように管理しないと。1人が辞めたら数珠つなぎでやめる学生が出ないようにしないといけない。
- サテライトキャンパスについて、日中は空いているのなら、何か他に活用しないのか。
- 魚町のまちなかESDセンターが手狭なので、人が集中した場合は分散する形で使用する話も出ている。
- 又貸ししてはいけないのか。博多シティの会議室には九州大学のBS(QBS)が入っているが、18時以降しか使用しないので日中は空いている。そこで空いた時間は共通の会議室にしていて、貸出業務はビル会社が行っている。そして18時以降は必要な教室はQBSが占有するので、九大が払うお金が安くなり、ビル会社もスペースを有効に使える。正直言えば、教室等は貸室業として儲からない。そこで教室を借りに来る人が飲食をする、いわゆるシャワー効果を狙って事業をする。
- 22年度に大学基準協会から「社会人学生が自主学習できるスペースを確保しなさい」と指摘を受け、24時間利用できる教室が必要だったので又貸しをするというような発想は無かった。学生にはむしろ積極的に空き教室を利用してもらった方が指摘に対する対応になると思った。
- 部屋はいくつ借りるのか。
- 2部屋借りる予定である。
- では、2つの内1つを自習室にして、あと1つは貸し出したら良い。おそらく日中は教室の1つは空くと思う。それを無理やり使う必要はない。駅の会議室というのは非常に利用価値が良いので、一般開放したら利用が殺到するだろう。
- 検討する。
- しかし法令上ややこしいのではないか。
- 本学でも講演会や外部の試験などで教室貸し出しは行っているので、それと同じ扱いで良いだろう。
- 本学が直接貸す方法もあるが、使用しない時間をビル会社に戻すという考え方で、その分家賃を引いてもらう方法もある。

- 元契約の段階で考えないといけない。
- ビル会社にとっても、人が来るのだから良いのではないか。今後の課題として検討してみたい。

#### 報告 2 教員の昇任選考について

配付資料 2 のとおり、教員の昇任選考について報告があった。

質疑応答：なし

#### 報告 3 平成 25 年度入学者数について

配付資料 3 のとおり、平成 25 年度入学者数について報告があった。

質疑応答

- 昨年と比べて入学者数は多いのか。
- 全体の数で言えば 6 名多い。
- 国際環境工学部を中心に平均点が上がっている。
- 一方で経済学部の方は倍率が低かったということで、テコ入れを検討している。
- これは全国的に言える現象で、不況になると工学、薬学、看護などの資格が取れる学部に学生が集まる傾向にある。一過性のものなのか 2, 3 年続くものなのかは分からない。
- 定員よりどのくらい超過しても良いのか。
- 過去 4 年の平均で学部毎に 1.3 倍までだ。
- 辞める人もいるから若干なら（超過しても）良いということか。
- 私学の場合は定員割れも起こっている状況だからだと思う。

#### 報告 4 平成 25 年度一般選抜の合否判定等について

配付資料 4 のとおり、平成 25 年度一般選抜の合否判定等について報告があった。

質疑応答：なし

#### 報告 5 平成 24 年度入試広報活動について

配付資料 5 のとおり、平成 24 年度入試広報活動について報告があった。

質疑応答

- 活動を一生懸命行っているのは分かるが、効果はどうなのか。
- 年度終了毎にどういったイベントに出席した生徒が試験を受けたのか等の分析は行っている。今年度はその分析結果を踏まえて、なるべく最少経費で最大の効果が得られるように行っている。
- 分析は毎年継続的に行っているのか。
- データとしては取ってある。
- お迎え企画のオープンキャンパスに来てくれた生徒は、受験してくれる傾向が非常に高い。それはやはり、こういったイベントに来てくれる生徒はもともと本学を受験する意思がある人が多いからだが、今後は本学を知らない人にも知ってもらえるお出かけ企画の方にも力を入れていきたい。

#### 報告 6 平成 24 年度卒業生の就職状況について

配付資料 6 のとおり、平成 24 年度卒業生の就職状況について報告があった。

## 質疑応答

- 建築デザイン学科の就職率が良いのか。
- 個人的な見解だが、他学科の学生と比べてコミュニケーション能力が高いと思う。建築デザイン学科は意外にフィールドワークが多く、ケースの度に学生を連れて行ってチームを作って行う仕事が多かったり、教員も面倒を見る機会が増えたりする。その分、学生もコミュニケーション能力が自ずと身に付いてくる。
- うちの（JR九州の）人事担当に聞く話だが、面接をするとともに会話ができない学生がいるということだが本当なのか。
- 授業を行って学生とコミュニケーションを取ってみると分かることだが、学生も様々なので中にはそういった学生もいる。
- では、地域創生学群の就職率が高かったのも、その辺の能力が高いというのが理由だろうか。
- そうだと思う。多種多様な人たちと接点を持ち、いろんな考え方に動じずに対応できるかだろう。必ずしも成績が良い人が良い所に就職できるとは限らない。決まる学生は何社も決めてくるが、決まらない学生は何社受けても受からない。やはり最終的にはコミュニケーション能力ではないかと思う。
- その辺を教育のやるべきこととして取り組んではいるのか。
- 授業の中でキャンプ等外に行ったりグループで作業させたりする試みは行っている。
- 理系は割と人数の少ない学部だからできるだろうが、法学部や経済学部等はどうするのか。ゼミに参加するとか、サークル活動するとかあるだろうが、それも自由参加だろうから参加しない学生もいるだろう。
- 新カリキュラムでは法学部・経済学部でも、全ての学科で1年生の基礎演習を必修にしているので、そういった取り組みは行っている。内容は図書館の利用や論文の基本的な作成方法など多岐に渡っているが、そこを通してコミュニケーション能力等の向上を図っている。
- 大学生にもなってそういう教育に気を付けなければいけないというのが…。
- 最近の傾向として、私立大学では先輩が新入生に対して面倒を見るという仕組みがとられているようだ。

## 報告7 危機管理規定の制定及び「安全・安心ハンドブック」の作成について

配付資料7のとおり、危機管理規定の制定及び「安全・安心ハンドブック」の作成について報告があった。

質疑応答：なし

## 報告8 創立70周年記念事業委員会の設立について

配付資料8のとおり、創立70周年記念事業委員会の設立について報告があった。

質疑応答：なし

## その他

配付資料9のとおり、平成24年度会計処理の誤りについて報告があった。

質疑応答：なし